

別 紙

第62回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 3 分科会	演題番号	310
題 名	生体検査時に採血した血液像の牛伝染性リンパ腫の診断についての有用性		
所 属	静岡県食肉衛生検査所		
氏 名	○池内葵、小野田伊佐子、石神勝幸、長谷川久、渡邊さつき、太田智恵子		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>牛伝染性リンパ腫の不顕性期および顕性期の牛では末梢血液中のリンパ球の実質的または相対的增加、さらに異型リンパ球の出現と増加がみられ、これが持続する。これを持続性リンパ球増加症 (PL) と呼びBLV発見以前から牛伝染性リンパ腫とPLの相関が知られていた。リンパ球数による牛伝染性リンパ腫の診断基準としてはECのkeyがあり、これは牛の年齢別にリンパ球数によるPLの判定基準を定めたものである。リンパ球数が生理的に乳用種より少ない黒毛和種にはJBのkeyという判定基準も存在する。</p> <p>しかし、当所において牛伝染性リンパ腫で全部廃棄した牛の生体検査時に採血した血液でリンパ球数がkeyの値よりも低値かつ異型リンパ球のみられない事例が認められた。</p> <p>以上のことからと畜検査時におけるEC及びJBのkeyの値等の有用性を確認すべく過去にと畜処理された牛のデータを検索し、生体検査時に採血した血液像の牛伝染性リンパ腫の診断についての有用性を検討したので、その内容を報告する。</p>		